

2026年1月13日
日本新薬株式会社
広報部

各位

CDP「気候変動」分野で最高評価である「A」、「水セキュリティ」分野で「A-」評価を獲得

日本新薬株式会社（本社：京都市南区、代表取締役社長：中井 亨、以下「当社」）は、このたび、国際的な環境非営利団体Carbon Disclosure Project（CDP）より、2025年の評価として、「気候変動」の分野において最高評価である「A」、「水セキュリティ」の分野において「A-（Aマイナス）」とそれぞれリーダーシップレベルの評価を獲得したことをお知らせします。



当社は、「地球環境保護への取り組み強化」をマテリアリティ（重要課題）の一つとして掲げており、「気候変動対策」「資源循環の推進」「生物多様性の保全」「食品ロス削減への貢献」に取り組んでいます。

気候変動対策においては、Science Based Targetsイニシアティブ（SBTi）から認定された科学的根拠に基づく温室効果ガス排出量削減の目標*に従い、消費電力の再生可能エネルギーへの切り替え、太陽光発電設備設置による再生可能エネルギーの活用、LED照明器具への更新を始めとした設備改修によるエネルギー使用量の削減、営業車両のハイブリッド車導入による低炭素エネルギーへの転換などを推進しています。また、資源循環の推進においては、水資源への対策として、節水による無駄な水使用の削減、使用水の法令に基づいた排水の水質管理に努めています。

* [2024年1月26日ニュースリリース](#)

こうした取り組みや透明性の高い情報開示が評価され、今回の「A」および「A-」評価の獲得につながったと考えています。今後も当社は継続的な環境保全活動に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。

Carbon Disclosure Project（CDP）について

CDPは、企業や自治体に対して「気候変動」「水セキュリティ」「森林資源」の3分野に関する環境情報を開示するよう促す国際的な非営利団体です。世界中の主要企業に対して、3分野に関する質問書を送付し、各分野の回答をガバナンス、リスクと機会の開示、事業戦略、パフォーマンスなどの項目でスコアリングします。スコアは最高位「A」から最低位「D-」の8段階で評価し、結果を公表しています。

<https://www.cdp.net/ja>

以上